

日和佐中学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得について、個に応じた指導の工夫・改善をする。
- ② 言語活動の充実を図り、思考力を高め、自己表現力・コミュニケーション能力を高める。
- ③ 生徒の主体的な学習を促す指導の工夫・改善をする。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
大田 澄江 (1年主任・研修主任)	校長(総括) 猪谷 正治 ・教頭(総務) 龍田 雅和 ・牧野祐未子(2年担任・キャリア教育主任) ・蛇目 達男(3年主任・進路指導主事) ・東明 啓子(特別支援コーディネーター)

美波町立日和佐中学校長

猪谷 正治

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 基礎的・基本的な知識・技能を習得するための計算練習・漢字練習・単語練習等の課題に、真面目に取り組むことができる。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②毎日の宿題や課題を確実にやり切ることができる。	①定期テストの基礎・基本の知識を問う問題において正答率80%以上。②宿題をやり切る生徒数90%以上。③生活記録を全行書ける生徒数95%以上。	定期テスト以外での定着テストや小テストへの取り組みを強化することで、個々に応じた基礎的・基本的な知識・技能の習得を図っていく	①定期テスト前の振り返りテストが各教科で実施できたことは、定期テストに向けての復習につながったり、テスト勉強への意欲の喚起につながった。 ②各学年、生活記録を6行書かせる指導は実施できた。	①②③ともあと少しだけ成果指標には届かなかったが、宿題をやり切る生徒、生活記録を全行書ける生徒の割合は、4月当初に比べて向上した。
課題 授業や課題には真面目に取り組んでいるものの、基礎・基本が定着していない生徒もいる。	具体的方策(教員の取組) ①定期テスト前に基礎・基本の小テストを実施する。不合格者には再テストを実施し、粘り強く基礎・基本の定着を図る。 ②生活記録指導で語彙力と作文力を付ける。	取組指標 ①定期テスト前には、各教科で最低1回は小テストを実施する。②毎日、生活記録を6行以上書かせる指導をする。		評価 B	次年度における改善事項 基礎・基本が定着していない生徒が一部いる。各教科で授業中での効果的な振り返り方法を見直すとともに、定着テストの回数を増やし、不合格者には再テストを実施し合格するまで粘り強く指導することが必要である。さらに、年間を見通し計画的に定着・確認テストを実施し、生徒が意欲的に取り組めるようにテスト問題にも工夫を凝らせ、達成感が味わえるようにすることが不可欠である。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 興味や関心がある学習内容について、自ら考えて豊かに表現することができる。	①目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えをわかりやすく書いたり説明したりすることができる。 ②探究的で粘り強く課題に取り組むことができ、深い思考力や豊かな表現力が身についている。	①根拠を明らかにして、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは得意と答える生徒数80%以上。	全ての教科において、①多様な意見が出てくるような学習課題を設定する。②自分の考えの根拠を明確にして書いたり話したりさせる。 ③体験を通して、実感を伴って理解を深めさせる。	①各教科とも、生徒が自分の考えを筋道を立てて発表する機会を一週間に1回以上つくれた。 ②研究授業を年間1人1回以上は達成できなかったが、互いの授業を参観し合うオープンクラスは毎学期、実施できた。	根拠を明らかにして、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは得意と答える生徒数80%以上は達成できなかったが、自分の考えを表現しようとする意欲は向上した。
課題 話すこと、書くことを苦手としている生徒が多い。また、テストや課題等の記述式の問題、応用問題を苦手とする生徒が多く、それらの問題では無回答が多い。	具体的方策(教員の取組) ①全ての教科で思考や考察の過程での学習活動に創意・工夫を凝らし、言語活動を充実させる。 ②生徒が興味を持ち自ら考えてみようとする授業を創造するとともに、教師がお互いに参観し研鑽する。	取組指標 ①生徒が自分の考えを筋道を立てて発表する機会を一週間に1回以上つくる。 ②研究授業を年間1人1回以上。		評価 B	次年度における改善事項 各教科で問題文を丁寧に読み、何が書かれているのか、何を問われているのか読み取る力をつけさせる。書くことで自分の考えが深まったり明確になっていくようなワークシートを工夫したり、付箋紙を使って根拠を明らかにして意見を述べる機会をつくる。友達の見聞を聴くこと、自分と相手との考えの相違に気づくこと、考えの根拠を説明したり質問したりすることができる効果的な授業形態やグループ学習の在り方を検討する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた役割や課題に真面目に取り組む、宿題等の提出率も高い。部活動や、陸上の朝練習に積極的に参加し、自己を鍛え、高めようとする生徒も少なくない。	①課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じる事ができ、自信を持つことができる。 ②将来の進路に対する目標を持ち、そのために努力できる。 ③家庭学習に意欲的・計画的に取り組むことができる。	①主体的に学習に取り組んでいる生徒数70%以上。②毎日の家庭学習時間90分以上70%以上。③総合や課題研究で調べたり、考えてまとめていくことは楽しいと答える生徒数90%以上。④将来の進路の目標を持っている生徒数60%以上。	家庭学習の手引きを見直し、生活習慣を改善させる。また宿題以外の自主的な学習ができるように、家庭での学習時間と内容を改善させる。定期テスト前に、家庭学習時間調査を行い、生徒の学習意欲を喚起する。	①授業の中で生徒の主体的な活動を賞賛していく取り組みは実施できた。②授業で発言しやすい発問の工夫を工夫し、意欲的に発言した生徒を賞賛するは実施できた。 ③毎朝、家庭学習時間調査を行い、定期テスト前には、目標や学習内容も記入する別の学習調査も行った。	①主体的に学習に取り組んでいる生徒数70%以上は達成できなかった。②毎日の家庭学習時間90分以上70%以上は達成できた。③総合や課題研究で調べたり、考えてまとめていくことは楽しいと答える生徒数90%以上は達成できた。④将来の進路の目標を持っている生徒数60%以上は達成できなかった。
課題 授業に対して受け身の姿勢の生徒が多い。また自分から課題を見つけて学習することは苦手である。	具体的方策(教員の取組) ①生徒の主体的な活動や体験を授業に多く取り入れる。 ②定期テストの一週間前から「定期テストの目標と家庭学習の記録」を提出させる。毎日、目を通し、必要な支援を行う。 ③毎日、家庭学習の記録を記入させる。	取組指標 ①授業の中で生徒の主体的な活動を賞賛していく。②授業で発言しやすい発問の工夫を工夫し、意欲的に発言した生徒を賞賛する。③毎日、家庭学習時間調査を実施する。		評価 B	次年度における改善事項 与えられた課題には真面目に取り組める生徒は多いが、自分で課題を見つけて取り組むといった意欲に欠け、指示待ちの姿勢にある。また、自尊心がやや低い。したがって、自分の個性や能力に応じて目標を立てさせ、最後までやり遂げさせることで達成感や自信を持たせる。さらに、将来に目を向けさせ、夢や進路の目標を設計できるように進路指導やキャリア教育を1年次より系統的・計画的に行う。

平成30年度 学力向上ロードマップ

